

発行日
令和2年2月5日

Vol. 71



発行所
関西配管工事業協同組合
〒531-0071
大阪市北区中津1-2-19
新清風ビル7階
TEL(06)6371-5905 FAX(06)6371-9544

編集者
事業部・教育情報部
HP:<http://www.kankan-club.or.jp/>
E-mail:jimu@kankan-club.or.jp



関 西 配 管 工 事 業 協 同 組 合 機 関 誌

もくじ



● 「新春を迎えて」庄司真之理事長	2
● 新年賀詞交歓会開催	3
● 組合員・賛助会員懇談会開催	5
● 三団体懇談会開催	6
● 大阪管材展で業界アピール	7
● 配管技能コンテストに選手派遣	7
● レッキス工業で講習会開催	8
● レッキス工業に感謝状と記念品贈呈	9
● 受検対策実技講習を開催	10
● 福岡で日管連全国青年部会開催	12
● ニュースファイル	14
● 理事会 議事要旨	15
● 今後の組合行事予定	15
● 配管基幹技能者講習を支援	16

新春を迎えて

若者が「夢と希望」を持って働く業界めざす



理事長 庄司 真之

新年明けましておめでとうございます。旧年中は、当組合の諸活動に何かとご指導、ご鞭撻を賜り有り難うございました。本年も変わりませず、宜しくお願い申し上げます。

昨年2019年は、5月に新元号「令和」に改元され、新しい時代が幕を開けました。私達は、日本の歴史の大きな節目に立ち会うことができました。天皇の即位に関する様々な儀式が執り行われ、世界各国から多くの要人が来日し、世界中の注目を集めました。

改めて日本の伝統に触れ、日本の良さ、日本の素晴らしさ、日本の世界での立ち位置を感じることができ、私自身、忘れていた「日本人としての誇り」を再認識することができました。

本年、令和2年も「日本人としての誇り」を忘れることなく、毎日を過ごしていきたいと思っております。

当組合は、設立以来「技能の伝承と若手技能工の育成」を主目標に活動を続けてまいりました。本年も、引き続き「若手技能工の育成・教育」を柱に活動を続ける所存です。

現在の建設業界最大の課題は職人不足です。その職人不足に対応するためには、若い人を建設業界に入職させることが絶対に必要です。若い人が、「夢と希望」を持って働く配管業界に変えること、親御さんが自分の子供を働かせたいと思う業界にすることが組合の目標であり、私の目標です。

若者に目を向けてもらうには、週休2日制に始まるいろいろな職場環境の大幅な待遇改善を行う必要があります。昨年より、「働き方改革」「建設キャリアアップシステム」など盛んにいわれておりますが、建設業界にとりましては非常にハードルが高い、難しい問題です。

しかしながら、決して避けては通れません。この難問題を業界一丸となってクリアすることが、建設業界の諸問題の解決につながるのではないかでしょうか。幸い、建設業界は、今年開催の「東京オリンピック・パラリンピック」が牽引役となり仕事量が大幅に増えました。当初、オリンピック後の仕事量の減少が懸念されておりましたが、インバウンド需要や「2025年大阪・関西万博」の開催決定により、それも杞憂に終わりそうです。

今後は、「2025年大阪・関西万博」の開催に向けての様々なプロジェクトが動き始め、大阪を中心に仕事量が大幅に増加し、益々忙しくなってくると考えられます。このことは、建設業界が変わっていくための、変化するための格好の追い風であると思います。

当組合は組合員一同力を合わせ、この追い風のもと、関係各位のお力をお借りし、配管工事業界のイメージアップを計り、若い人や女性の入職者を増やす活動をして参ります。現場で汗する配管工が誇りを持って、一生を通して働くことができる、魅力ある業界づくりに邁進いたします。関係各位の更なるご指導、ご協力をお願い申し上げます。

新年賀詞交歓会開催

一元気よく「子年」発進—



円内は司会進行の小阪副理事長

組合の新年賀詞交歓会は1月23日午後5時30分から大阪市都島区の太閤園で開催し、元気よく新年の挨拶を交わして「子年」がスタートしました。

新年賀詞交歓会には竹中工務店と大林組のゼネコンのほか、関連団体、教育機関、組合顧問からの来賓24名をまじえ、組合員、賛助会員など総勢86名が出席し、小阪武司副理事長の司会で進められました。

年頭挨拶に立った庄司真之理事長は、昨年の組合活動に対するお礼を述べるとともに、新元号・令和がスタートしたことについて「歴史の大きな節目に立ち会って改めて日本の伝統に触れ、日本の良さ、日本の素晴らしさ、日本の世界での立ち位置を感じることができ、日本人としての誇りを再認識することができた」と述べました。また、組合設立以来の目標で



年頭の挨拶を述べる庄司理事長

ある技能の伝承と若手技能工の育成に引き続き注力していく考えを示しました。この中で、建設業界最大の課題は職人不足とし、それに対応するには若い人の建設業界入職が欠かせないとして「若い人が『夢と希望』を持って働く配管業界に変えること、親御さんが自分の子供を働かせたいと思う業界にすることが組合と私の目標である」と強調しました。

庄司理事長はこの目標を達成す

るために週休2日制をはじめとする職場環境の大幅な待遇改善が欠かせず、建設業では高いハードルながら業界一丸となって取り組んでいきたいとして協力を呼びかけました。

来賓紹介に続き、大阪空気調和衛生工業協会の城口俊雄副会長が来賓を代表して「設備業界にとって働き方改革を進めるには、生産性の向上と担い手の確保・育成が重要な課題であり、関西配管組合さんが技能の研修・講習活動に力を注いで優秀な人材を育てていることに敬意を表する。また、当協会が実施している配管技能コンテストにも多大なご協力をいただいており、引き続きご支援をたまわりたい。これから2025年大阪・関西万博に向けて配管工事業の皆様と力を合わせて進んでいきたい」と挨拶しました。



来賓挨拶する（左から）城口氏、竹中工務店・小柳氏、大林組・伊東氏

大阪府中小企業団体中央会の総務部主幹兼情報調査課長・今西修氏が「中小企業にとって厳しい経済情勢の中、自助努力とともに、協同組合の役割も發揮して躍進してほしい」と述べ、同氏の発声で乾杯しました。

開宴直後、来賓の竹中工務店大阪本店の設備部長・小柳真二氏と大林組大阪本店の統括部長・伊東剛氏が登壇し、両氏とも働き方改革に取り組む決意を示し、「飛躍的な生産性の向上が必要な今、皆さんの知恵と技術・技能をお借りして実現したい」（小柳氏）、「大阪

市内の大型再開発など皆さんの協力なくしてなしえないことばかりであり、ワン・チームとなって取り組みたい」（伊東氏）とそれぞれ期待の言葉を述べました。

会場では賑やかに年賀の挨拶が交わされ、宴半ばには賛助会員が次々と壇上で自社PRを繰り広

げ、自社紹介や新製品・新技術をアピールしました。

最後に、玉川義光副理事長が「人材の確保・育成に全力で取り組む」と改めて決意を示し、同氏の音頭で威勢よく大阪締めを行い、「子年」の躍進を誓いました。



新年の門出を祝って乾杯



賛助会員が登壇し自社PRを展開



玉川副理事長の音頭で大阪締め

組合員・賛助会員懇談会を開催

人材確保と育成で意見交わす



挨拶する庄司理事長

第10回「組合員・賛助会員合同懇談会」を昨年12月12日に当組合事務局近くの三栄ビル会議室で開催し、市場動向などについて情報・意見交換を行いました。

懇談会には組合員、賛助会員合わせて38名が出席しました。小阪武司副理事長の司会で進められ、最初に庄司真之理事長が組合員・賛助会員に日頃の運営活動に謝辞を述べるとともに、「元号も令和に変わり、新しい時代を迎えていく。当地では2025年の大阪・関西万博に向けてさらに忙しくなってくる」と述べ、『万博開催に向けた取り組み』と題した資料を配布し、予想される経済波及効果や大阪がめざすＩＲについて出席者に説明を行いました。

出席者の自己紹介のあと、自由討論としてそれぞれがテーマを投



げかけて意見を出し合いました。庄司理事長から「先日の三団体懇談会で人手不足が深刻化している中、ダクト組合では直接、ゼネコンの設備担当者らが生の声をヒアリングしにきたと聞いた。今までわれわれに目を向けなかったゼネコンが同じ目線に降りてきたことは追い風であり、チャンスである」と切り出すと、出席者からは「ゼネコンの風向きが変わってきたているのを実感している。ただ、現場によってその度合いは様々である」という声が出されました。また、「現場の行程管理をしっかりしてもらいたい」「サブコンの現場担当者が若すぎる」「ゼネコン・サブコンを非難しても埒があかないでの従業員のスキルを高めることが大切」などの意見が出されました。

一方、外国人技能実習生の現況について「ゼネコンによってスムーズなところもあれば、書類の提出など面倒なところもある」などの現状が報告され、今後さらに外国人の受け入れが激しくなるとの見通しが示され、離職率が高い建設業として「早急に組合として打開策を考えないといけない」など危機感を訴える声があがりました。

懇談の最後に斎藤竜久理事は「皆さんの本音の意見を聞いて満足している。これらの意見をまとめて他の団体にも発信したい」と述べ、玉川義光副理事長は「大阪・関西万博を控え、日本の若者にアジアの若者も加えて人材育成に注力し、今後の業界発展を図りたい」と述べました。このあと、会場を移して忘年会を兼ねた懇親会を開き、一年間の労をねぎらいました。



第46回「三団体懇談会」開く

現場が直面する課題について意見交換

当組合と近畿ダクト工事業協同組合（ダクト工事団体）、近畿保温保冷工業協会（保温保冷工事団体）で構成する「三団体懇談会」は昨年11月29日、大阪市北区鶴野町のグラン・アーモで第46回会合を開きました。

人手不足が深刻化する中、『2025年大阪・関西万博』を控え、仕事量が増える近い将来を見据えて、当組合とサブコン団体の大空気調和衛生工業協会（大空衛）を加えた四団体が協力して様々な課題を乗り越えていく方策と業界・団体の在り方などについて意見交換しました。

会合には18名が出席。今回は近畿ダクト工事業協同組合が当番幹事として同組合・森靖洋理事長の司会進行のもと、各団体の意見や情報を取りまとめました。

森理事長が「人材不足の中でわれわれが手を打たないと業界の未来の発展も希望もない」と述べ、各団体に具体的な方策などの意見を求めました。この中では、各団体からゼネコン・サブコンに対する様々な不満の声が挙がり、現場での不適切な対応や杜撰な工程管理などが度々ある現状について、



どう改善していくかなどを議論しました。

当組合の庄司真之理事長は「現場で職人に対して平等に扱うことを見みたい。忙しくなる直前の今が改善のチャンスである」と述べ、様々な機会を捉えて要望していくことが重要だと強調しました。

これに関連して、現在行われている四団体協議会では現場の問題点が議題にあがっていないことに触れ、「外国人労働者をどう取り込んでいくか」などの諸問題を大空衛側からゼネコンとの打ち合わせや会議などの場で陳情してもらいたいという声が出されました。一方、現場の良い面の事例なども報告され、現場所長とのコンタクトの仕方などについても互いに意見を出し合うことでサブコン・ゼネコン側と何らかのきっかけができるとの意見も出されました。こ

の中では、コミュニケーションの取り方として、「SNSが発達しているが、携帯電話がない時代を思い出して、当時の情報共有の方法を活かしながら対応するのも大事」との見方がありました。また「情報共有の『見える化』を実践できたらトラブルが軽減されるのではないか」との意見も出されました。

今後、三団体として「四団体協議会において実務に深く立ち入った話題を提供し、大空衛を通してゼネコン側に現場の生の声を届けてもらう」ことで意見が一致し、各団体が次回の四団体協議会までにそれぞれ意見をまとめて提議することとしました。

このほか、市況についても情報を交わし、「現在、大阪地区は落ち着いているが、2020年からは忙しくなるだろう」という見通しが大勢を占めました。



当組合出席者



懇親会を開催

大阪管材展で業界アピール

組合ブースで高校生にねじ切り体験

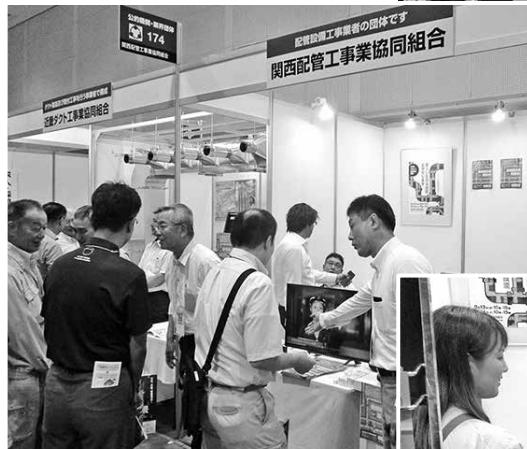
当組合が後援団体として参画している「第19回管工機材・設備総合展OSAKA2019」（大阪管工機材商業協同組合主催）が昨年9月12～14日の3日間、大阪・南港のインテックス大阪6号館で開催され、前回（1万5073人）を上回る1万5292人の来場者で賑わいました。

今回は、メインテーマに「交感、共感、管動発信!」、サブテーマに「未来をひらく流体テクノロジー」を掲げ、会場もこれまでの4号館から約1.5倍の広さの6号館Aに移り、195の出展者が最新製品・技術情報を発信しました。

当組合は後援団体の一つとして来場者動員などに協力するとともに、組合ブースを設営し、配管モ



開会式でテープカットに臨む
当組合の庄司理事長（中央）



組合の存在を幅広い層にアピール



工科高校生徒にねじ切り体験

デル作品の展示、VTRの放映などで組合活動を幅広い来場者層にアピールしました。ブースでは、折から来場していた工科高校の生

徒にねじ切り加工を体験してもらうなどのイベントを実施し、若い世代に対し配管工事業への認知度向上に努めました。

大空衛の配管コンテストに当組合員から選手派遣

当組合は、昨年8月24日に東大阪市の府立東大阪高等職業技術専門校で開催された大阪空気調和衛生工業協会主催の第11回配管技能コンテストに協力するとともに、選手を派遣しました。

コンテストは、次代の優秀な技能者の育成をめざし、全国の空調衛生設備団体の中で唯一、同協会が実施しているものです。

今回は現場の第一線で活躍する



生・生徒18名（学生の部）が参加して腕を競いました。

学生の部では彦根工業高校の岡駿也太君が見事優勝に輝き、大阪府知事賞を受賞、一般の部ではカンペ設備工業の神戸良彰氏が優勝し、大阪府職業能率開発協会会长賞が授与されました。当組合員の中道設備工業の服部大輔氏は3位入賞を果たしました。

技能者26名（一般の部）、建築設備関連の学科を履修中の職業技術専門校や高等学校など5校から学

レッキス工業で講習会開催

ねじ切り実習と拡管式継手を学ぶ

組合は12月7日(土)に大阪府東大阪市のレッキス工業本社工場で講習会を実施し、受講者は1級配管技能士検定に向けた手動ねじ切りの実習、オーエヌ工業の拡管式継手の商品知識習得とレッキスパイプマシンによる正しいねじ加工などを学びました。

講習会には29名が出席し、令和元年度の1級技能士検定に備えて12月開催の組合主催・受検事前講習（南大阪高等職業技術専門校）の予習を兼ねて行われました。

この講習会は毎回、レッキス工業の全面的なバックアップにより実施されており、今回で20回の節目を迎えました。この日も土曜休業日にかかわらず同社幹部・技術スタッフが出て研修をサポートしていただきました。

冒頭、玉川義光副理事長（教育情報部会長）はレッキス工業側に感謝の言葉を述べるとともに、「受講者の皆さんには1級配管技能士の資格を取り、配管業界でリーダーシップを発揮されるよう期待す



円内は挨拶する玉川副理事長

る。われわれも早くアジアの人材を引き入れて業界の人手不足を緩和するよう努力する」と挨拶しました。

講習では、技能検定に必須のパイプの手動ねじ切りについて、レッキス工業の担当者からレクチャーを受けながら実習しました。また、同工場に隣接する「レッキスミュージアム」でパイプマシンを

はじめ、各種配管機器の歴史を学びました。

このあと、オーエヌ工業大阪営業所の所長福島洋二氏と係長高井克之氏が同社の主力商品の一つである拡管式継手「ナイスジョイント」について商品説明を行いました。この中では、同商品シリーズのうち180度C蒸気対応できるナイスジョイントの特徴や新型拡管



オーエヌ工業による製品紹介



オーエヌ工業の新型拡管機を用いた作業要項の実地講習

機「N E—500」の実演などが行われました。新型拡管機は従来機を大幅に軽量化するとともに、精度向上、拡管スピードの向上を図った新鋭機です。

引き続き、レッキス工業から営業推進グループの大西規夫グループリーダーによる「正しいねじ接



レッキスミュージアムの見学

合と転造ねじ」と「不良ねじを作らない、ねじ加工機の使用」の詳細な解説が行われました。最後に転造ねじ加工の実演が行われ、切削ねじと転造ねじの強度比較が接合後の実物を用いて披露され、参加者は転造ねじの強さを改めて認識していました。



手動ねじ切りの実地講習



レッキス工業による転造ねじ加工実演

レッキス工業に感謝状と記念品

当組合の毎年の技術講習会に会場提供、技術スタッフによる講習支援など多大な貢献をされてきたレッキス工業に対し、当組合は感謝状と記念品を贈呈しました。

同社での技術講習会が20回という記念すべき節目を迎えたのを機に贈呈したもので、20回目の講習日の昨年12月7日、組合の玉川義光副理事長から同社の真弓太・常務執行役員に感謝状と記念品が手渡されました。玉川副理事長は長年の支援に深く感謝の意を示し、真弓氏は「いささかでも貢献でき



レッキス工業に玉川副理事長（左）から感謝状を贈呈



感謝状



記念品の絵画を手にする
真弓氏（右）と同社社員

たことは光栄です。今後も引き続きご協力を惜しみません」と挨拶

しました。なお、記念品は、山・滝・河川を描いた絵画です。

技能士受検対策の実技講習開催

受検に備えて2日間じっくり講習



令和元年度の1級配管技能士検定(令和2年2月)へ向け、組合では12月14日(土)と15日(日)の2日間にわたり、大阪府和泉市テクノステージの大阪府立南大阪高等職業技術専門校で受検対策実技講習を行いました。

講習は、これに先立ってレッキス工業で実施した予備講習に続く本格的な実技講習で、当組合役員や熟練技能者が指導員となり、両日とも午前9時から午後4時半まで昼食をはさんでみっちり行われました。今回は1級配管技能士の受検予定者30名が出席し、鋼管、塩ビ管、銅管の切断や管継手との接続など受検本番さながらの講習

に取り組みました。

初日の午前中は、オリエンテーションに続き、澄川史朗講師による「材料の拾い出し・ペーパーテスト」の講習(座学)が行われ、最後に配管図から材料を拾い出して材料表を作成する練習問題試験が実施されました。

午後の実技講習では、まず玉川義光副理事長が受検に向けての心構えや実技の要項を説明しました。この中で玉川副理事長は、組合が独自に作成した「実技テキスト」に基づき、作業の細かいコツなどを交えて作業手順を説明しました。課題作品製作に先立ち、パイプを真っ直ぐ切断するため、そ

の要項説明が行われ、それに基づいて各自が切断したサンプルを提出させて指導しました。

このあと、玉川副理事長と山本浩二指導員、池成信夫指導員が鋼管の手動ねじ切りと銅管溶接の模範実技を行い、それぞれの作業の要点などを実技で指導しました。

引き続き、実技講習に移り、指導員が受講者の間を細かく巡り、配管作業の指導に当たる中、受講者は切断、接合・接着、配管組立などで作業試験の課題作品づくりに取り組みました。

2日目は、午前中、前日の材料取り練習問題試験で及第点に達しない受講者は補講を受け、あとの



鋼管ねじ切りの模範実技



銅管溶接の模範実技



材料取りのペーパーテスト



鋼管の切断具合を指導員がチェック

受講者は前日の反省を交えて実技講習を受けました。

午後は受検本番と同じ時間で課

題作品づくりに挑戦しました。受講者は3時間30分かけての模擬検定作品の製作に懸命に取り組んで

完成させ、指導員から寸法採点、水圧テストを受けて反省点を洗い出し、受検本番に備えました。



日管連全国青年部会

福岡で第10回合同部会開催



挨拶する松原部会長



日本配管工業団体連合会傘下の各地区団体青年部会で組織する日管連全国青年部会（部会長松原政敏氏＝関東団体）の第10回合同部会が昨年10月18、19日の両日、福岡市で開催され、全国7団体から81名が参加しました。



今回は九州団体青年部会（部会長岡本直喜氏）の担当で開催されたもので、活発な交流を通じて青年部会活動の活性化への方策を模索しました。

博多駅に集合した一行は、まず、配管総合プレファブメーカーの多久製作所（本社・大阪市中央

区、社長奥田信夫氏）の九州工場（佐賀県多久市）を訪問して工場を見学しました。第1～4工場からなる敷地面積4万5000平方㍍の広大な九州工場では、塩ビライニング鋼管、ステンレス鋼管、炭素鋼钢管の検査からプレファブ加工、洗浄、塗装、アッセンブリまでの工程が設備されています。一行は同社独自の開発・加工現場を見て回り、担当者に質問を投げかけるなど熱心に視察しました。

このあと、博多市内のホテルに到着して会合を開き、九州団体の岡本部会長の開会宣言に続き、日管連の松原部会長が、折から日本

で開催中のラグビーワールドカップの日本の活躍に触れ、「あらゆる困難を乗り越えて躍動する彼らに感動した」と話し、「青年部会も日本代表と同じように好きなように意見を出し合いながら、みんなの気持ちを一つにしていけば配管業界もよくなっていく」と挨拶しました。

来賓として出席した九州配管工業団体連合会の野村純椿理事長が挨拶を述べたあと、関西団体青年部会顧問の朝倉博昭氏（前日管連青年部部会長）が「日管連の青年部会に携わって15年が経つ。皆さんと知り合えたことが人生の財産とな



プレファブ配管の製作現場を見学





関西組合の出席者（後列）

った。この機会に親睦を深めてもらい、次の世代にも伝えていってほしい」と挨拶し、同氏の発声で乾杯しました。

懇親会半ばには各地区の近況を順次報告し、新たな議案提起など意見を出し合いながら和やかに交流を深めました。

各地区団体の取り組み・現況の概要は次のとおりです。

【北海道】

千歳空港関連工事は一部引き渡しの状態だが、ホテルが年明けにオープンするので工事は続いている。新幹線の延伸に伴う札幌中心部の再開発工事が始まり忙しい。人材不足の中、話題になっている働き方改革をどのように織り込んでいくのかが課題である。

【東北】

一時期の繁忙期のピークは過ぎた。現在は自動車関連の工場、病院の移転、ホテル、商業施設などの工事が多く、公共事業では小中学校の冷房事業工事が急ピッチで進められている。青年部会ではこれから予想される仕事量の減少に伴い、会員間の情報交換、提供を促進し、また仕事での得意分野、不得意分野を互いにカ

バーしていく連携活動を進めていきたい。

【関東】

オリンピック関連施設の工事は終盤を迎えており、東京地区全体の工事繁忙度が増している。建築・内層・電気やダクト工事なども繁忙を理由に工事が遅れ、現場全体の工期遅れが発生している。作業員確保と技能継承については、関東でも共通認識としている。高齢による引退作業員と新規入職者とのバランスが悪く、総数は明らかな減少傾向にある。

【中部】

昨年に引き続き繁忙度が高く、年明けにかけてさらに忙しくなる予想。トヨタ自動車などの自動車産業関連、新日鐵などの鉄鋼関連のプラント配管工事も多く、増税前の駆け込み小規模工事対応もあり、特に溶接工の需要が高まり人材手当に苦労している。今年度の

大卒採用は今まで以上に厳しく、有効求人倍率も年々増加しており、今後の大きな課題である。

【関西】

2025年の万博開催が決定し景気上昇の期待が高まっている。労働力人口も減少するなど、技能者不足が慢性化することが懸念される。近年、インバウンド需要が高まり、ホテル・商業施設の建設が多く出ている。こうした中、以前から取り組んでいる建設キャリアシステムへの下請業者の加入は進んでいない。

【中国】

広島市内は駅前再開発がひと段落し、中心部は建物老朽化に伴う改修工事及び建て替え工事が進んでいる。市外については郊外の大きな工場が動き始め、冬にかけて人手不足が予想される。半導体関連の工場は広島・山口・島根と長期にわたり工事があり、しばらくは需要が継続する模様。

【九州】

福岡市は航空法の規制によりビルの高さ規制を緩和する動きが出てきて、老朽化によるビルの建て替えに伴い、中・高層ビルが建設される予定。福岡以外の他県では県庁所在地で駅及び周辺の再開発が進んでいる。青年部会の活動は

昨年8月より2か月に1回のペースで全国青年部会の開催について議論してきた。今後は課題である、雇用と働き方改革について理事も参加し情報共有に努めていきたい。



懇親会では全国会員が活発に交流

近畿圏のマンション発売減少へ

不動産経済研究所がこのほどまとめた2019年の近畿圏（2府4県）の新築マンション発売戸数は、前年比13.9%減の1万8042戸と、3年ぶりに前年を下回り、1992年（1万2121戸）以来の低水準となった。20年の発売戸数も19年比6%減の1万7000戸にとどまる見通しで、近年好調を続けてきたマンション発売も踊り場に差しかかった。

昨年のマンション発売を地域別にみると、近畿全体のほぼ半数（19年で49.8%）を占める「大阪市部」が前年比2.5%減（8922戸）と振るわなかったほか、全地域で前年を下回った。発売した月に売れた割合を示す契約率の年間平均も74.1%で前年より0.4ポイント下がった。

20年の発売について同社は、主要地区では大阪市部と大阪府下が減少し、神戸市部や兵庫県下、京都市部は増加すると予測。大阪市部は7.5%減の7700戸、大阪府下は8.8%減の3400戸をそれぞれ見通している。神戸市部は26.7%増の1900戸、兵庫県下は6.3%増の1700戸、京都市部は54.8%増の1300戸を予測している。

減少傾向が続いている京都市部は市内外周部で中型物件が活性化するほか、神戸市部と兵庫県下では物件の中・大規模化により、供給増が見込まれるとしている。大阪市部の超高層物件は19年からの発売後ろズレ物件が加わり、大量供給される見通しだという。

組合賛助会員数社で 「鋼管技術フォーラム」開催

当組合賛助会員のシーケー金属、リケン、レッキス工業などパイプ、継手、配管機器メーカー6社（他にJFEスチール・JFE継手・第一高周波）で構成する「鋼管技術フォーラム実行委員会」は昨年11月19日、大阪市北区の国際会議場（グランキューブ大阪）で「鋼管技術研究会による次世代軽量鋼管及び配管接合技術の提案」をテーマに講演会を開催し、自治体、設計事務所、ゼネコン、サブコン、管工事業、管材・設備機器商社の関係者ら約150名が出席した。

冒頭、主催者を代表して鋼管技術研究会の島本健代表理事が配管分野において鋼管がどのような位置づけなのかを説明したあと、各メーカーの講師が「軽量鋼管の開発」や「フレア配管システム」など、それぞれの分野で講演し、転造ねじ加工やシール付継手の接続などの施工実演を行った。

19年度第2四半期 リフォーム受注好調 —非住宅の管工事も増加—

国土交通省がこのほどまとめた2019年度第2四半期（19年7～9月）の建築物リフォーム・リニューアル工事受注額は、前年同期比12.8%増の3兆2583億円と好調に推移した。主力の「非住宅」関連工事が15.5%増と大きく伸び、「住宅」関連工事も7.0%増と堅



鋼管技術フォーラム

調だった。本誌関連の管工事業は住宅分野で低調だったが、非住宅分野で増加した。

「住宅」関連工事の受注額を業種別でみると、主力の建築工事業が5%増（6221億円）とまことに水準を維持し、職別工事業は20%増（2475億円）と大きく伸び、一般土木建築業も63%増（575億円）と好調だった。管工事業は31%減（450億円）、電気・機械器具設置工事業は41%減（103億円）と、ともに落ち込んだ。

一方、「非住宅」関連工事は全般的に好調で、受注額は前年同期比15.5%増の2兆2750億円となった。業種別にみると、主力の建築工事業が36%増（8249億円）と大きく増加した。管工事業は13%増（3053億円）、職別工事業は19%増（2651億円）であった。

工事部位別に「設備」の受注件数（主たるもの件数）をみると、「住宅」分野では主力の「給水給湯排水衛生器具設備」は約33万件で断トツに多く、以下、「電気設備」（約8.5万件）、「空気調和換気装置」（約4.9万件）の順。「非住宅」分野の「給水給湯・排水衛生機器設備」は約7.7万件で3位。全体の約45%を占める「電気設備」18.7万件と次位の「空気調和換気設備」は約10万件であった。

理事会 議事要旨

【令和元年9月】――――――

- ①大空衛主催の第31回4団体協議会出席報告
- ②大空衛主催の第11回配管技能コンテスト開催の結果報告
- ③第5回・日管連全国青年部会長交流会の出席報告
- ④第10回・日管連全国青年部会・懇親会に伴う、関西配管組合青年部会からの参加者報告
- ⑤日管連・第14回定期総会・懇親会・理事会出席報告
- ⑥令和元年度「登録配管基幹技能者講習」の開催案内書・ポスター送付報告
- ⑦第19回管工機材・設備総合展の小間割決定報告と役員・青年部会当番表の確認について
- ⑧賛助会員からの組合脱退申し出の件
- ⑨第20回技術研修会開催日程と実施要領作成について
- ⑩ミズノ(株)製品に対する組合としての取り扱い方法の検討
- ⑪その他（◇大阪府建団連主催の6回建築・土木技能体験フェア2019=技フェスタ=開催に伴う、協力団体としての名義使用報告
◇令和元年12月定期理事会・組合員・賛助会員合同懇談会開催日の変更）

【令和元年10月】――――――

- ①令和元年度認定職業訓練配管科1級技能士コース修了報告
- ②第19回管工機材・設備総合展の出展修了報告

- ③鋼管技術研究会主催の「钢管技術フォーラム2019in大阪」開催に伴う、組合としての後援承諾報告
- ④令和元年度技能検定1級配管受験対策実技講習開催要領作成について
- ⑤第10回組合員・賛助会員合同懇談会開催要領作成について
- ⑥ミズノ(株)製品の組合としての製品取り扱いの検討

【令和元年11月】――――――

- ①令和元年度第1回近畿地区会場「登録配管基幹技能者講習」の修了報告
- ②第46回三団体懇談会開催に伴う、当組合からの提案事項の検討
- ③令和2年度認定職業訓練配管科1級技能士コース実施計画作成について
- ④令和2年新年賀詞交歓会の開催要領作成について

【令和元年12月】――――――

- ①第20回技術研修会修了報告
- ②大空衛主催の第32回4団体協議会の出席報告
- ③第46回三団体懇談会の出席報告
- ④日管連・理事会出席報告
- ⑤第10回組合員・賛助会員合同懇談会の運営順序打合せ

【令和2年1月】――――――

- ①令和元年度技能検定1級配管受験対策実技講習の修了報告
- ②令和2年度定期理事会開催日の確認
- ③賛助会員からの組合脱退申し出

の件

- ④第47回三団体懇談会開催に伴う、当番幹事団体として当組合からの提案事項の検討
- ⑤令和2年新年賀詞交歓会の運営順序の打合せ
- ⑥その他（◇令和2年2月定期理事会の休会について）

☆今後の組合行事予定☆

当組合の当面の組合行事は次の通り予定をしております。詳細が決まりましたら書状でご連絡いたします。

第47回三団体懇談会

3月12日(木) 午後3時～午後5時の予定で大阪市北区豊崎の三栄ビル8階・第10会議室で開催します。当組合の出席者=理事

組合員・賛助会員合同懇談会

12月3日(木) 午後3時30分～午後5時の予定で開催します。その後、忘年懇親会を開催します。

令和3年新年賀詞交歓会

来年1月21日(木) 午後5時30分～午後7時30分の予定で開催します。

令和2年度認定職業訓練

配管科1級技能士コースとして4月12日(日)から9月13日(日)の日曜日の15日間、ポリテクセンター兵庫で実施します。

配管基幹技能者講習を支援

令和元年度の登録配管基幹技能者講習の前期登録講習が昨年10月28日～30日の3日間、大阪市中央区のエル・おおさか（大阪府立労働センター）で実施され、当組合は玉川義光副理事長、小阪武司副理事長、中野広造理事を講師とし

て、山中淳市事務局長を準備員として派遣し協力しました。

元年度は近畿のほか、関東（東京都）、東北（仙台市）の全国3ブロックで実施され、多くの登録配管基幹技能者が誕生します。



事業主の皆さん、 労働保険に入って いますか？

労働者を1人でも雇っている事業主は労働保険に加入する義務があります。労働保険とは「労災保険」と「雇用保険」を総称したも

ので、労働者を1人でも雇用されている事業主の方は、労働保険に必ず加入しなければなりません。

お問い合わせ先

◇労災保険制度については

労働基準監督署へ

◇雇用保険制度については

ハローワーク（公共職業安定所）へ

【労働保険事務委託団体・労働保険事務組合】

関西配管工事業協同組合

【労災保険・特別加入団体】

関西配管工事業協同組合・一人親方組合

安心



活気



やる気



働くみんなに 退職金効果！

中退共は、国がサポートする中小企業のための退職金制度です。

安全

国の制度だから安心

掛金の一部を
国が助成します。

●パートタイマーさんや家族従業員もご加入いただけます。

●他の退職金・企業年金制度等とのポータビリティも可能です。

有利

掛金は全額非課税

手数料もかかりません。

簡単

社外積立だから
管理もラクラク

転職先でも引き継げる
「通算制度」があります。

詳しくはホームページを
ご覧ください

中退共

検索

<http://chutaikyo.taisyokukin.go.jp/>



独立行政法人勤労者退職金共済機構
中小企業退職金共済事業本部

〒170-8055 東京都豊島区東池袋1-24-1
TEL(03)6907-1234 FAX(03)5955-8211